

## エネルギー政策に関する意見箱

1. 氏名	大野 崇
2. 年齢	
3. 性別	
4. 連絡先	
5. 御意見及びその理由	<p>1.第五次エネルギー基本計画の審議では、再エネ・原子力の割合は第四次基本計画から変えないものの、再エネを主力電源化し原子力は福島事故の経験から安全性を最優先し依存度を可能な限り低減するという再エネへの傾斜方針を基本計画とするとしている。</p> <p>2.ドイツを見て欲しい。脱原子力・再エネ導入へエネルギー政策を転換した結果、温室効果ガス排出量は削減されず家庭電気料金は著しく高騰した。FIT 制度による太陽光・風力の大幅導入によりその調整を火力が余儀なくされたからである。日本も同じ轍を踏もうとしている。</p> <p>3.原子力は優れた電源である。これまでの実績がそれを示しており、エネルギー自給率を高め、海外依存リスクを下げ、安定・安価な良質な電力を供給してきた。事故リスクは新規制で克服し安全性を最優先という垣根をクリアした。</p> <p>4.エネルギー基本計画は国の根幹となるエネルギー確保を確たるものにするためのものである。エネルギーを取り巻く環境の変化を取り入れ都度見直す必要はあっても</p> <p>技術的に確立され実績のある原子力の依存を減らし、まだ途上にある太陽光・風力による再エネを急いで主力電源とする理由はない。ドイツの失敗例にみられるごとく国を滅ぼす。太陽光・風力は自然に優しいがゆえにお天気任せのため安定電源になり得ない面がある。</p> <p>5.2030年までに間がない。今急がれるのは原子力の新設・リプレースである。我が国のエネルギー脆弱の立ち位置を考えた時、国民の理解が得られないから先延ばしするというのは責任ある政党として許されない。是非、勇気をもって第五次基本計画に記載して欲しい。国破れて山河ありの姿だけは見たくない。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>